

露子さんと晴夫ちゃんのお話

武田雪夫

1

さあ、このお話は、露子さんつゆこと小さな弟の晴夫ちゃんはるをのお話ですよ。

露子さんは、お母さまから、

「晴夫ちゃんは、まだ小さいから、ひこりで連れて出てはいけませんよ。」と言はれてみました。

今日は朝から雨ふりで、表おもてであそべないので、露子さんは、ほんこにつまらなくて、つまらなくてなりませんでした。

ところが、お晝すぎになると、雨がやみました。露子さんは、うれしくてたまらないので、弟の晴夫ちゃんを連れて、表へ出て行きました。ご用をしていらつしやるお母さまには、だまつて表へ出てしまひました。

まあ、いけない露子さんですこし。

おやおや、表の道は、ドロドロです。でも、露子さんも晴夫ちゃんも、ゴムの長靴をはいて來ましたから、さんなぬかるみだつて平氣です。ふたりも、長靴で、ベチャベチャ泥をはねながら、ご門の前の道を歩きまはりました。

チンチンチンミ自轉車が、走つて來ました。自轉車は、ベチャベチャミ、露子さんたちの長靴よりも、すつミ澤山泥をはねて行きました。ブーブーブーミ自動車も、走つて來ましたよ。自動車は、ベチャベチャミ、自轉車よりも、もつミ澤山泥をはねて行きました。

そこへ、ごごかの大きな犬が來ました。犬もベチャベチャミ、小さな足で、泥をはねながら歩いて來ました。

その犬を見るミ弟は、びつくりして、かけ出さうしました。ミころが、すぐにバチャンミ、うつむきにころんでしまひました。

弟は、泥の上にくろんだまゝ、泣き出しました。

「ワアン、ワアン、ワアン。」

露子さんは、いそいで弟を引つぱりました。やつミ晴夫ちゃんは、起上りました。でも、まあまあ、大へん。お手々も足も、エプロンも、晴夫ちゃんは一めん、まつくろくろの泥だらけです。

まあ、ごうませう。露子さんは、ほんミに困つてしまひました。するこそこへ、さつきの犬が、また來

ました。こんきは、ずつこそばへよつて来て、晴夫ちゃんの長靴に鼻の先をつけて、クンクンこかぎました。晴夫ちゃんは、おぎろいて、いきなり露子さんに抱きつきました。

露子さんは、晴夫ちゃんを、しつかり抱いてゐました。そして、お姉さまですから、こはがらないで、犬の方を向いて、

「シッ、シッ、シッ。」と言ひました。

するさ、犬は、やつこ向ふへ歩いて行つてしまひました。

それでは、さあ、もうよいでせう。露子さんは、抱いてゐた弟をはなしました。おやおや、露子さんが、きたなくなりましたこと。そら、エプロンも、スカートも、みんな泥だらけになつてゐます。晴夫ちゃんのお手々やエプロンの泥が、みんな露子さんのきれいな洋服についてしまつたのですね。

露子さんは、それを見るさ、びつくりして泣き出しました。

「アーン、アーン、アーン。」

さうするさ、晴夫ちゃんも一しよに、また泣き出しました。

「アーン、アーン、アーン。」

「ワアン、ワアン、ワアン。」

露子さん、晴夫ちゃんが、二人で一しよに泣き出しましたので、お母さまはおぎろいて出ていらつしやい

ました。お母さまは、二人をこちらになるこ、笑ひながら、

「まあまあ、ごろんごちやんのお嬢ちやんこ、ごろんごちやんの坊ちやん、ごうぞ泣かないで頂だい。今きれいにきれいに洗つて上げますからね。」とおつしやいました。

するこ、露子さんはお首をふつて、すぐに泣くのやをめました。するこ、晴夫ちやんも、露子さんの真似をしてお首をふるこ、すぐに泣くのやをめました。

お母さまは、二人をお湯殿へ連れて行つて、お洋服をぬがせるこ、お水をかけて、きれいにお手々や足を洗つて下さいました。そらそら、こちらへチャアチャアチャア。こんごは、こちらへチャアチャアチャア。

まあまあ、二人も、きれいになりましたこ。さあ、それでは、きれいなお洋服にかへて頂きませう。おや、いつの間にか、よいお天気になりました。お日さまが、キラキラこ、ほんごにまぶしく照つて來ました。するこ、お母さまが、おつしやいました。

「まあ、お天気になりましたね。それでは、今晚、お父さまに、縁日を見に連れて行つて頂きませうね。」それを聞くこ、露子さんは、ほんごにうれしくなりました。それで、にこにこして、すぐにお返事をしました。

「ええ。」

するこ晴夫ちやんも、元氣よくお返じをしました。

